

全科協ニュース

Japanese Council of Science Museums Newsletter

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成8年1月1日発行(通巻第146号)

特集1 特別展の取り組みについて

～平成7年度特別展「生命40億年のあゆみ」を通して～

鳥取県立博物館
学芸課自然係

1. 鳥取県立博物館の概要

当館は、本県の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的として、昭和47年10月に、国指定の史跡内(鳥取城跡)に設立された。当館の組織は、管理課(庶務係・設備係)、学芸課の2課で構成されている。昭和58年に学芸課を再編成し、自然係・美術係・人文係の3係として、現在にいたっている。この間、郷土の博物館として多くの方々に親しまれてきたが、大型展示資料の搬入口が不十分などの施設設備の問題に加え、県民の価値観の多様化、県内外での各種展示資料館の新設が進んでいる状況の中で、鳥取県にふさわしい博物館のあり方を模索し、さらに努力しなければならない時期になってきている。



鳥取県立博物館

2. 当館の特別展について

当館の展示は、学芸課の3係がそれぞれの部門の常設展示、催物展、特別展の展示を担当している。常設展示室は1階にあり、催物展と特別展は2階の特別展示室で行う。

催物展は、常設展示では展示面積の制約などのため紹介できない資料を主として展示し、学芸員の平素の研究成果を発表する場、あるいは新収蔵の資料を紹介する場等として開催するもので、常設展示の料金で入館できる。

特別展示室の概要(第1・第3特別展示室はガラスケースを常設)

特別展示室	面積(m ²)	陳列壁面(m)
第1展示室	515	固定80、可動105
第2展示室	515	固定83、可動134
第3展示室	374	固定65、可動62

特別展は、催物展より規模の大きな展示会で、当館独自で企画するもの、他館との共同の巡回展、他館の著名・貴重な資料の展示などがある。特別展を行う基本的な考え方として、県民が平素観ることのできにくい文化的・科学的価値の高い資料を展示・解説し、県民の文化向上の機会を提供することを目的としている。したがって、特別展には別枠で予算を計上し、入館料も常設展示とは別に徴収する。昭和60年度からの当館の特別展は、原則として年2回実施し、美術係は毎年1回、自然係・人文係は隔年で担当している。そして自然係・人文係のうち特別展を担当しない係がその年度の催物展を担当することになっている。

過去3年間の特別展

年度	自然係	人文係	美術係
平成5	大海獣	(催物展)	工芸美術の華
6	(催物展)	明治維新と鳥取	水木しげる展
7	生命40億年のあゆみ	(催物展)	里見勝蔵展

3. 特別展「生命40億年のあゆみ」の取り組み

自然係の職員は3名で、それぞれが主に植物、動物、地学を担当している。また、原則として、順に各年度の特別展・催物展を担当することになっている。特別展の基本的考え方や規模等を考慮すると、担当者の専門領域のみの展示会を実施することは難しく、しかも他館から借用する資料が多いので、できるだけ早く準備に取りかかるようにしている。今回の特別展「生命40億年のあゆみ」は、地学部

門の担当で、表にある今までの特別展の内容を考慮し、平成5年の10月頃から要項案作りに取り組んだ。

毎回実施される自然系の特別展の準備の流れとしては、

- ①素案作成……………主査
- ②係会議……………自然係3名
- ③館内協議……………館長、管理課長、学芸課長、管理課長補佐、自然係3名
- ④自然部会……………自然部会委員(大学教官3名)、館内協議出席者

の協議を経ることになっているので、今回もこれらの協議を経て準備に取りかかった。

今までの自然部門の特別展

NO.	開催年度	特別展名
1	昭和48	世界の蝶
2	49	人類の進化と旧石器
3	51	世界の貝
4	52	失われた生物
5	54	レオナルド・ダ・ビンチ展
6	54	日本海100万年
7	57	生きている化石
8	58	地球の不思議
9	60	昆虫の世界
10	62	恐竜と鳥獣の歴史
11	平成1	山陰の海
12	3	マンモスと人類の時代
13	5	大海獣

4. 取り組みの経緯

時 期	主な取り組み
平成5年10月	・過去の当館特別展の内容の検討
11月	・他館の特別展・企画展について調査 ・他館視察及び予備調査 福井県立博物館、岐阜県博物館、瑞浪市化石博物館、石川県白山自然保護センター、金生山化石館
12月	・要項案作成、借用希望資料の調査(～5月)
平成6年1月	・係会議(要項案等)
2月	・第1回館内協議(要項案等) ・第1回自然部会(要項案等)
平成6年4月	・係会議(借用交渉等)

- 5月
 - ・中国地方方面借用交渉
美祢市歴史民俗資料館、秋吉台科学博物館、徳山市立動物園、広島市安佐動物園
- 6月
 - ・関東・中部地方方面借用交渉
豊橋市自然史博物館、栃木県立博物館、世界自然保護基金日本委員会、奇石博物館
 - ・岡山大学固体地球研究センター借用交渉
 - ・財政課事前交渉(概要説明)
 - ・財政課交渉資料作成(～11月)
 - ・特別講演会講師依頼
名古屋大学名誉教授 糸魚川淳二氏
 - ・美保関隕石レプリカ借用交渉
- 7月
 - ・大阪方面借用交渉
大阪大学理学部、天王寺動物園
 - ・展示ストーリーの変更及び修正
 - ・業者委託の見積り、予算案作成(～12月)
 - ・財政課との予算交渉(～12月)
 - ・借用予定資料一覧作成(～10月)
- 8月
 - ・展示レイアウトの作成(～3月)
 - ・国立科学博物館借用交渉
- 9月
 - ・係会議(要項案、展示ストーリー、展示レイアウト、借用資料等)
 - ・第2回館内協議(要項案、会期、予算、借用資料等)
- 10月
 - ・館蔵資料の写真撮影(～3月)
- 11月
 - ・島根大学汽水域研究センター・理学部借用予定資料写真撮影
- 12月
 - ・第2回自然部会(展示内容、展示ストーリー等の協議)
 - ・借用予定資料の写真撮影及び整理
栃木県立博物館、豊橋市自然史博物館、岐阜県博物館
- 平成7年1月
 - ・図録原稿、解説パネル等の作成準備(～3月)
 - ・係会議(展示ストーリー、展示レイアウト、借用資料等)

2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回館内協議（展示ストーリー、展示レイアウト、借用資料等） ・特別展の広報用資料作成
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回自然部会（特別展タイトル等最終決定） ・予算決定
平成7年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・展示資料借用依頼書発送 ・市町村教育委員会後援依頼 ・会場ディスプレイ関係仕様書作成 ・解説パネル関係仕様書作成 ・委託業者との契約（～6月）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・借用・返納日程、作業日程案作成 ・ポスター、チラシ、入館券原稿作成 ・街頭看板・懸垂幕の仕様書作成 ・テレビ等広報原稿作成（～6月） ・図録原稿完成、著作物使用許可書申請 ・借用書の発行、借用資料の保険申請 ・大阪大学理学部資料借用
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・信州大学理学部資料借用 ・図録原稿、解説パネル校正 ・キャプション作成 ・開催通知、ポスター、チラシ発送
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・中国地方方面資料借用 島根大学、美祢市歴史民俗資料館、秋吉台科学博物館、徳山市立動物園 ・関東・中部地方方面資料借用 栃木県立博物館、国立科学博物館、豊橋市自然史博物館、岐阜県博物館 ・県内資料借用 ・展示作業日程及び内容の確認（自然係、委託業者等） ・図録、ディスプレイ、解説パネル、写真パネル完成 ・展示作業（6日間） ・報道公開（前日） ・特別展オープン
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講演会 「生きものはどう変わってきたか」 講師 糸魚川淳二氏

	<ul style="list-style-type: none"> ・化石レプリカを作る会 講師 自然係 ・撤去作業の確認（自然係、委託業者等） ・特別展閉幕 ・撤去作業（3日間）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・中国地方方面借用資料返納 ・関東・中部地方方面借用資料返納 ・大阪・信州方面借用資料返納 ・県内借用資料返納 ・礼状送付

5. 平成7年度特別展「生命40億年のあゆみ」開催要項

(1) 趣 旨

46億年におよぶ地球の歴史の中で、生命が誕生したのは今から約35億年前のことであるといわれている。原始の生命は酸素のない海に誕生し、単細胞の生物から複雑な体の作りをもつ多細胞生物へと進化してきた。この間いろいろな環境の大変化に多くの生きものが絶滅の危機においやられながらも、そのつと新しい環境に適応した生きものがたくましく進化していった。古生代に繁栄した三葉虫、中生代に繁栄した恐竜をはじめとする爬虫類、新生代の多様な哺乳類の出現等地球の歴史に登場する生きものは、地球環境の大変化と密接にかかわっている。この展覧会では、35億年にわたる生命の軌跡を化石から得られる情報をもとに展示・解説し、生命の進化の不思議や地球環境の移り変わりについて紹介するものである。

(2) 会 期 平成7年7月28日(金)～8月27日(日)

(3) 会 場 鳥取県立博物館第1・第2特別展示室

(4) 特別講演会

演題 「生きものはどう変わってきたか」

期日 平成7年8月6日(日)

会場 鳥取県立博物館講堂（入場無料）

講師 名古屋大学名誉教授 糸魚川淳二氏

(5) 主 催 鳥取県教育委員会・鳥取県立博物館

(6) 後 援 鳥取県各市町村教育委員会

(7) 入館料

	個人(円)	団体(円)
小・中学生	200	150
高校生	400	300
一般	800	600

(団体は20人以上)

(8) 展示テーマと内容

[テーマ1：創世期の地球と生命の誕生]

46億年前に地球は誕生したといわれているが、その後地球内部では、核、マントル、地殻の層状構造ができてきた。そして、原始の大気や海水が作られ、生命が誕生できる環境が整ってきた。約35億年前の太古の海で原始生命が誕生し、光合成を行うラン藻類が大繁殖して大量の酸素が作られ、約20億年前には、生物の進化を促す条件が整って、多細胞生物の発展の土台が築かれた。ここでは、地球誕生から初期の多細胞生物への道程を紹介する。

[テーマ2：海で栄えた古生代の生きもの]

約6億年前の古生代になると、太古の海に海生無脊椎動物のほとんどのグループが出現し、大繁栄を始めた。なかでも三葉虫は世界の海に広く分布するとともに、多様な種類に分化していった。古生代中期になると最初の脊椎動物である魚類が現れ、植物の陸上への進出が始まった。また、古生代後期には、陸上に進出を試みた両生類が出現してきた。ここでは、古生代の海で育った生きものを中心に、陸上へ進出しようと試みた両生類の進化の過程を紹介する。

[テーマ3：大型の生きものを育てた中生代の地球]

約2億5千万年前から始まった中生代は、比較的穏やかな気候が続き、水陸ともに豊かな生物界を形成した。植物界ではシダ植物の繁栄が続く一方、イチョウ、ソテツ類を中心とする裸子植物が急速に栄えてきた。植生が豊かになるにつれ、陸上に進出した爬虫類は、急速に進化し巨大化していった。なかには生活する場所を水中や空に求めるものまで現れて多様化した。何と言っても陸の王者恐竜は体形や生活の様子が特殊化して、6千5百万年前に謎の大絶滅をとげてしまったことはよく知られている。ここでは陸の恐竜と海のアンモナイトを中心に当時の生きものと環境について紹介する。

[テーマ4：複雑な体のつくりを備えた哺乳類]

三畳紀の終わりごろ(約2億2千万年前)、爬虫類のグループから進化した哺乳類は、一定の体温を有し、環境の変化にも広く適応して、世界の各地に分布を広げていった。地球環境もしだいに気候区分が生じ、気候帯に応じて植生のちがいが見られるようになってきた。このころ発展しはじめた被子植物は、動物に食べられることにより遠くへ運ばれ、確実に分布を広げるとともに、関わりを持つ生きものに新しい環境を提供するようになってきた。この相互依

存に支えられて、哺乳類や鳥類が大発展し、世界の各地に多様な生きものが見られるようになってきたが、ここではその様子を紹介する。

[テーマ5：環境の改変と生きもの]

自然の摂理に基づく環境の変化に対し、高度に発達した人間の文明は、その発展にともなって自然環境を急速に改変するようになってきた。大規模な森林伐採や海洋汚染は多くの生きものの生活環境を奪い、これを契機に砂漠化が進行するといった悪循環が繰り返されるようになってきている。ここではこのような環境変化におびえる生きものの姿を紹介し、本来あるべき地球の姿を考えてみたい。

6. 展示資料数

	借用資料	館蔵資料	写真パネル	解説パネル	大型背景図	総数
エントランス	1				2	3
テーマ1	16	4	12	7	2	41
テーマ2	60	35	8	7	2	112
テーマ3	28	14	10	15	6	73
テーマ4	13	22	3	7	2	47
テーマ5	12	16	40	4		72
総数	130	91	73	40	14	348

7. 本特別展で留意したこと

- ・地球の生物の歴史を大きく5テーマに分け、生物の進化の過程をわかりやすく展示することに心がけた。
- ・各地質時代に登場した代表的生物の資料をできるだけ多く展示した。
- ・過去の特別展で展示していない資料の展示・解説に努めた。
- ・借用資料と館蔵資料とを適切に組み合わせ、展示の充実を図った。
- ・化石ばかりの展示とならないように、わかりやすく親しみやすい展示にするため、大型背景図、カラー絵図入り解説パネル、写真パネル類を有効的に設置した。
- ・学術的に新しい説の出た資料の展示解説に努めた。
- ・生物と自然環境の関わり、今後の人類のあるべき姿について考える展示に努めた。
- ・展示室の有効的な利用に心がけ、観覧者が落ち着いて鑑賞できるようにした。
- ・大型の資料の展示・輸送に注意を払った。

- ・夏休みの企画として、小・中学生の興味を喚起する資料の展示に配慮し、アミューズメント的な要素を加味した。
- ・小・中学生を含め多くの方の参加できる講演会を企画した。

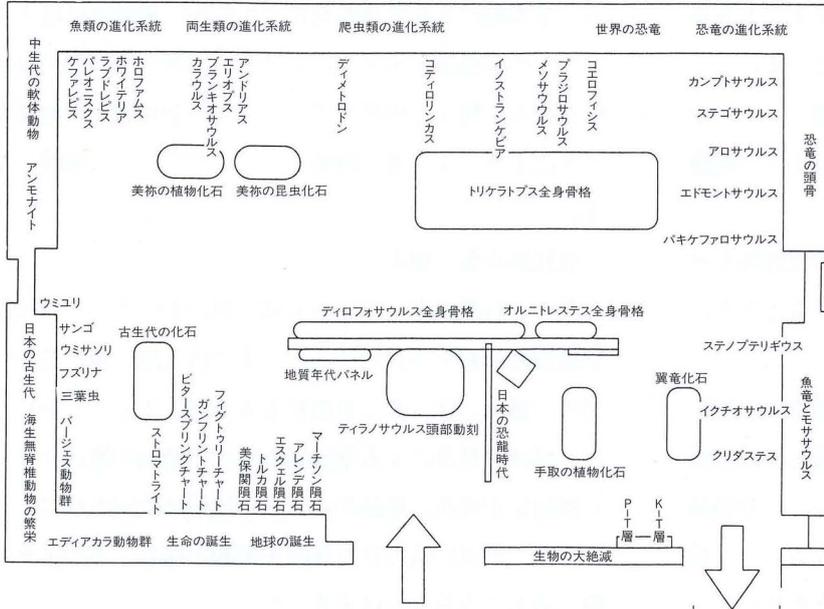
8. 本特別展を終えて

- ・資料借用先のご理解とご協力を得て、借用・展示・返納がスムーズにいった。
- ・当館としては、初めての試みである生命の誕生から現在

の生物までの展示ができた。

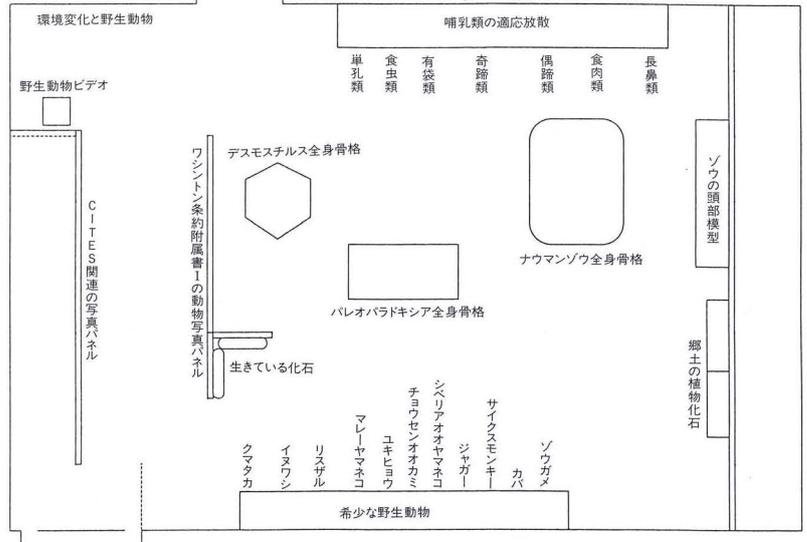
- ・展示資料総数が348点と多く、展示スペースに余裕がなかった。
- ・主な展示資料には、大型キャプションを置き、分かりやすい展示に努めたが、小型の資料等の展示についてももう少し配慮をするべきであった。
- ・観覧者が手にとって鑑賞できる資料やパソコンなどで参加・探求のできる展示を取り入れるべきであった。

第1展示室



第1展示室

第2展示室



第2展示室

会場の構成と主な展示資料

特集2 教育普及活動

鳥取県立博物館学芸課自然係

鳥取県立博物館の教育普及活動は、次の3つの柱によって構成されている。

- (1) 展示事業：常設展示、特別展、催物展、巡回展
- (2) 出版事業：入館案内、図録、資料目録、年報、研究報告、普及誌、博物館ニュース、会報
- (3) 普及事業：講演会、講座、観察会

(1) 展示事業

◆常設展示◆

地方の総合博物館として、郷土の特色を生かすことを最大の目標に、次の視点に立った展示を構成している。

- ① 時間的系統性 巨大な時間的経過の理解と、その中で地質現象や古生物の進化が認識できるように配慮した。
- ② 事象の広がり(分布)の規則性 分布の規則性をその要因と関連づけ、空間的把握を容易にするとともに地域の特性を強調した。
- ③ 分類の規則性 従来の博物館における基本的な展示方法であったが、最近の傾向として課題展示や生態展示が増え、分類展示は減少している。しかし、分類展示は限られた空間に多くの資料を展示できるという利点もあるので、岩石・鉱物、植物、貝類などのコーナーでは依然として採用している。
- ④ 環境と適応性 生物分野においては不可欠な展示要素であり、これを適確に表現する方法としてジオラマ



ナウマンゾウ全身骨格

を採用している。ジオラマは、地史(古生物)復元のみならず、郷土の特色でもある砂丘や大山・中国山地の生物などで採用している。

《人気の高い大型資料》

ナウマンゾウ全身骨格(レプリカ)

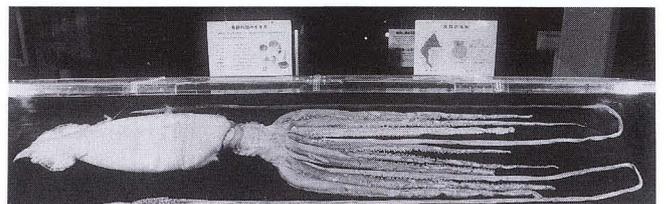
山陰沖の日本海海底からは、ナウマンゾウの切歯・臼歯16例とマンモスゾウの臼歯1例の化石が採集されている。これらの化石の大部分は、隠岐島より西域の水深150m~250mの海底から底曳網漁船によって引き上げられたものである。学術的に大変貴重な資料であるが、来館者にはナウマンゾウの全体像をイメージしにくい。そこで、その全身骨格を置き、併せて現世のアジアゾウの全身骨格も展示することにより、より深く理解していただくように構成している。

風紋剥ぎ取り標本

美しい自然に恵まれている鳥取県の中であって、鳥取砂丘は誇れる郷土の自然である。その砂丘地に風と砂が造り出す「風紋」は、そこを訪れる人を魅了する。しかし近年は、植林の普及による飛砂量の減少と植物の繁茂により砂の固結化が進み、風紋のみられる場所は限定されている。そこで、海岸に造られた風紋を樹脂で固め、そのままの状態で見せるように工夫した。

ダイオウイカ液浸標本

1988年4月、本県東部の海岸の浅瀬で巨大なイカが生きた状態で発見された。付近の人達が協力して捕獲した後、寄贈を受けた。展示ケース作製のため冷凍保存した後、標本として展示できるように整形し、ホルマリンで固定した。同年6月に展示ケースが完成し、その後常設展示室で漂着時の写真と共に観覧に供している。全長7mの腐敗のない全身標本であるということよりも、来館者はその巨大さに驚きの声を上げる。



ダイオウイカ液浸標本

オオギハクジラ全身骨格標本

1992年 1月、本県東部の海岸に全長およそ5mの死んで間もないクジラが打ち上げられた。下顎から伸びた一對の三角形の歯の特徴から、オオギハクジラのオスであることが判明した。オオギハクジラの漂着は、石川県以北の日本海沿岸地域で報告されているが、山陰地方では初めての記録であるために、その標本化作業を進めた。解体作業は借用場所の関係上、吹雪と自動車のヘッドライトの灯火の中、血と体油に足元を滑らせながら夜遅くまで続いたが、何とか骨格を確保することができた。完成した天井吊り下げ式標本は1993年 9月より常設展示室で観覧に供している。加えて、1995年 2月に漂着したオオギハクジラのメスの全身骨格標本を現在作成中であり、完成すれば雌雄の全身骨格を展示することになる。

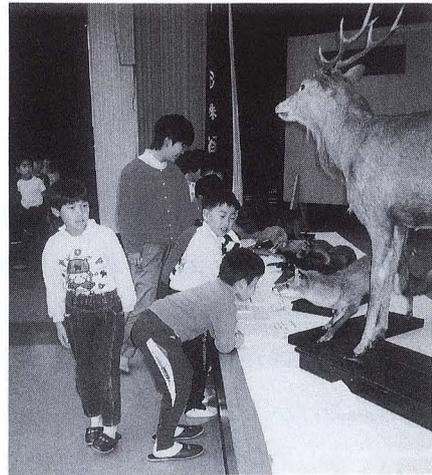
その他に、館内には資料紹介コーナーを設置し、随時新着資料や話題性の高い資料の紹介を行っている。

平成 7 年度 資料紹介コーナー展示内容

内 容	種 別	点数
ワシントン条約の動物②	鳥類剥製	4点
久松山 春の昆虫	昆虫標本	3箱
千代川の魚たち	魚類標本	11点
ワシントン条約の動物③	爬虫類剥製	5点
山陰海岸の生物Ⅰ～カニの仲間①～	甲殻類標本	8点
サギの仲間	鳥類剥製	5点
中生代の硬骨魚化石	魚類化石	9点
冬の公園	鳥類剥製	21点
大阪で見つかったセアカゴケグモ	クモ類標本	4点
恐竜「アロサウルスとステゴサウルス」	レプリカ	2点
鉱物の世界	鉱物標本	10点

◆巡回展◆

広く県民が地域や郷土の豊かですぐれた自然や貴重な文化遺産に接する機会を増やすことは、博物館がもつ使命の一つである。しかし、博物館の立地条件や県内各地の交通事情を考えると、行きたくても行けない人もいる。そこで、県立博物館が所蔵する資料を各地に搬出し展示を構成することにより、当初の目的を達成したい。これにより、多くの県民が博物館活動を理解し、地域や郷土の豊かですぐれた自然や貴重な文化遺産の保護や保存に対してより深い理



巡 回 展

解と協力が得られるものと考えてる。

昭和53年度から始めた巡回展は、これまでに延べ80市町村で開催し、8万人以上の人々が観覧している。本県の人口総数61万人に比べると、巡回展入館者は少なくはない。しかし、その開催回数は近年減少している。巡回展に関するアンケートの回答を見ると「開催に関する輸送費・保険料による経済的負担が大きいと、実施したくてもできないのが現状」という内容が多数あった。そこで、平成8年度は、輸送費・保険料に係る経費を全額県費負担することにより、巡回展事業の活性化を図っている。

(2) 出版事業

◆入館案内◆

環日本海交流事業の一環として、また、近年外国の方の利用が増加していることから、英語、中国語及び韓国語のパンフレットと、英語、中国語、韓国語及びロシア語の案内板を作製した。また、平成8年度はロシア語のパンフレット作製を予定している。

◆図録・資料目録◆

特別展開催時には、観覧者の知的好奇心を高め、学習意欲を満足していただくために、図録を作成している。また、資料整理事業に関連して、各種の資料目録を発行している。

◆年報・研究報告・普及誌・会報・博物館ニュース◆

これらは定期刊行物である。年報と研究報告は年1回、普及誌と会報は年2回、博物館ニュースは年4回発行している。配布先は、刊行物の種類によって異なるが、主に、県内の各市町村教育委員会、公民館、学校、友の会会員、

近県の博物館などである。

(3) 普及事業

◆講演会・講座◆

これらの事業は、博物館がその日時、内容、方法を定め、広く利用者に提示する集会活動である。博物館が参加者と直接コミュニケーションを取ることのできる数少ない機会でもある。講座資料の作成や物品の準備などの仕事は多いが、帰り際に投げかけてくれる「ありがとうございました。」の一言で、少しでも参加者の役に立てたことをうれしく思う。

◆野外観察会等◆

現在では、映像や音声など各種メディアを媒介として対象物に接することも可能である。しかし、野外観察会は、自然と向き合い、対話する活動でもあるために、参加者が得る感動は大きい。レンズに映る月や惑星が本物であり、普段は見向きもしない昆虫や植物に触れ、たたいた岩の中から化石が現れる。こんなにかくわくするような心の高まりは、本物だからこそ得られる感動である。

平成7年度に実施した普及事業

事業名	期日	参加者
春の星を見る会	5. 6	25
野鳥の声を聞く会	5.13	40
夏の星を見る会 I	7. 1	8
押し葉標本の作り方	7.30	35
昆虫標本の作り方	7.30	25
講演会「生きものはどう変わってきたか」	8. 6	142
化石レプリカを作ろう	8.12	36
地質見学会	8.19	45
標本を調べる会	8.20	179
夏の星を見る会 II	8.26	55
キノコを調べる会	10. 1	30
秋の星を見る会	10. 7	10

事業の内容によっては、外部講師を依頼したり、ボランティアの方々に参加していただくものもある。また、全ての事業の参加対象は小学生から一般までであるために、可能な限りその開催日を土・日曜日に設定した。なお、小学生の参加は、保護者の同伴を条件として提示している。



地質見学会

○ おわりに

鳥取県を訪れる人から、本県の自然に対する賛辞をいただくが、その豊かで素晴らしい自然も、近年は人間生活によって変容しつつある。身近な小さな自然に対する興味や関心を高めていただくことが、将来への夢や希望を広げると信じつつ、職務に取り組んでいる。

今回の特集は、「特別展の取り組み」と「教育普及活動」についてのみ紹介させていただいた。これ以外の、博物館本来の機能でもある資料の収集・整理保管・調査研究活動などの業務を含め、県内外の多くの方々の御指導・御鞭撻をいただき努力していきたい。

特集についてのご意見・お問い合わせは下記へ
お願いします。

〒680 鳥取市東町2丁目124

鳥取県立博物館 学芸課自然係

TEL 0857-26-8044 FAX 0857-26-8041

<新設館>

米トウラホマ科学館がオープン

テネシー州トウラホマ市に建築総延べ床面積が500平米の科学館が1995年にオープンした。規模は小さいが、体験学習を重視した同館では、音・光・重力・磁力・電気・化石の常設展示が設けられ、また学校教師および親のための学習支援情報センターも設けられた。

スペインに人体の科学館がオープン

人体の様々な機能を紹介した科学館がスペイン北西部の都市ラコルナで1995年にオープンした。常設展示では、解剖学・生理学・栄養学・健康科学のテーマを取り上げている。

<科学館のユニークなビジネス>

カリフォニア科学アカデミー、アメリカの展示市場に新規参入

カリフォニア科学アカデミーは今までユニークな科学展示品を自前でつくってきたことで世界的に有名だが、このほど同館は蓄積したノウハウを駆使して、展示制作を事業化することを始めた。展示業者のように、展示の企画から設計・制作までをやることになり、当地で注目されている。

<インターネット>

Academy of Natural Sciences (U.S.A.)

<http://www.acnatsci.org/>

Arizona Science Center (U.S.A.)

<http://aztec.asu.edu/government/Tempe/asc/asc.html>

Chicago Academy of Sciences (U.S.A.)

<http://www.chias.org/>

Edmonton Space & Science Center (Canada)

<http://www.ee.ualberta.ca.essc>

Eureka Children's Museum (U.K.)

<http://www.demon.co.uk/eureka/>

Field Museum of Natural History (U.S.A.)

<http://www.bvis.uic.edu/museum/>

Flandrau Science Center (U.S.A.)

<http://www.seds.orf/flandrau>

Henry Ford Museum & Greenfield Village (U.S.A.)

<http://hfm.umd.umich.edu/>

Lawrence Hall of Science (U.S.A.)

<http://www.lhs.berkeley.edu/>

Liberty Science Center (U.S.A.)

<http://www.lsc.org/>

Museum of Flight (U.S.A.)

<http://www.cyberspace.com/mbrunk/flight.html>

国立自然科学博物館 (中華民国)

http://www.nchc.gov.tw/demos/scim/web_docs/sciMuseum/ (中国語のみ)

New England Aquarium (U.S.A.)

<http://www.neaq.org/>

Palais de la Decouverte (France)

http://www.crihan.fr/palais_de_la_decouverte/html/palaisd.html

Petersen Automotive Museum (U.S.A.)

<http://cwis.usc.edu/lacmnh/petersen>

Sciencenter (U.S.A.)

<http://www.sciencenter.org>

St.Louis Science Center (U.S.A.)

<http://www.slsc.org>

Tennessee Aquarium (U.S.A.)

<http://www.tennis.org/>

Texas Natural History Collections (U.S.A.)

<http://www.utexas.edu/depts/tnhc/>. www

University of California Museum of Vertebrate Zoology (U.S.A.)

<http://www.mip.berkeley.edu/mvz>

Virginia Museum of Natural History (U.S.A.)

<http://www.bev.net/education/museum/vmnhmvl/vmnh.html>

*ハイフォン Fax : 03-3496-2146

e-mail : QFH03327@niftyserve.or.jp

—全科協情報—

加盟館の企画展・特別展示のご案内

○国立科学博物館特別企画展

「日本の鉱山文化—絵図が語る暮らしと技術—」

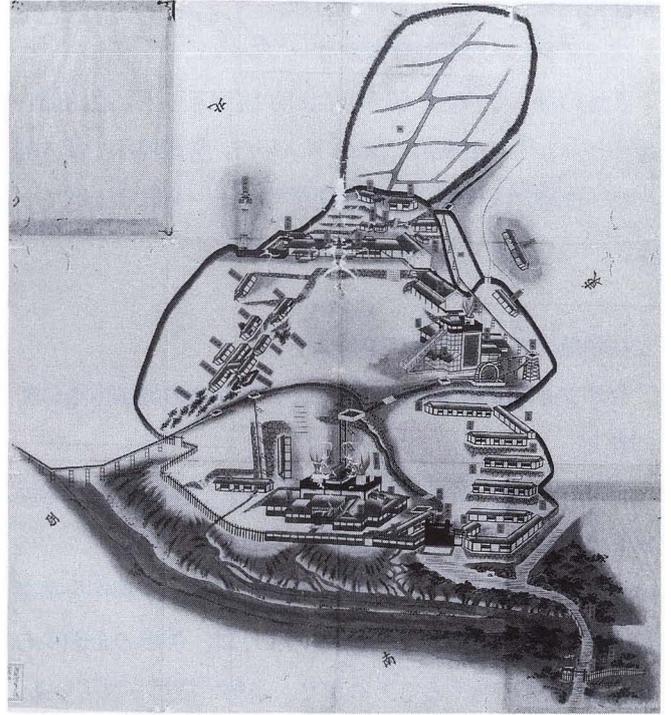
国立科学博物館では、特別企画展「日本の鉱山文化—絵図が語る暮らしと技術—」を平成8年2月27日(火)から6月23日(日)まで開催します。

この特別企画展は、日本の鉱山の歴史を、国立科学博物館所蔵の絵図及び国内の鉱山絵図によってその状況が概観できるように紹介します。

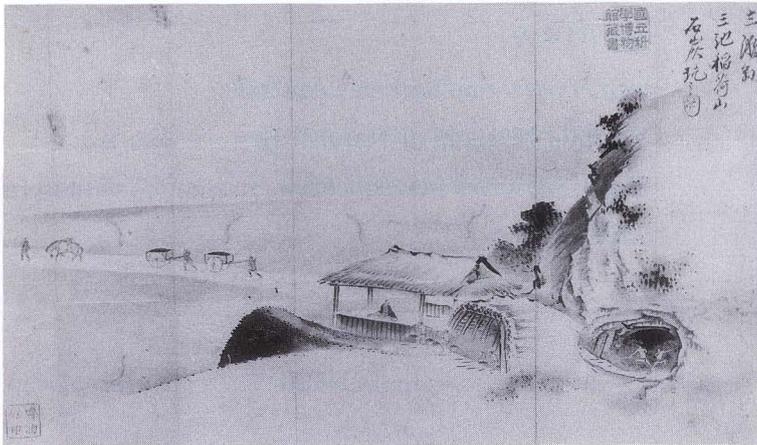
国立科学博物館所蔵の鉱山絵図の多くは、明治6年(1873年)にウィーンで開かれた万国博覧会に出品するために描かれたものです。この博覧会は明治の日本政府として参加した最初の博覧会であり、参加品目中、特に鉱産物は重視され、各府県にその提出を求めています。今回展示される絵図もそうした提出品の一部で、当時の金、銀、銅、鉄、石炭鉱山などが描かれています。絵図の描かれた時期の鉱山は、まだ江戸時代の状況をそのまま残し、外人技師の指導による本格的な近代技術導入が行われる以前のものであり、当時の技術やそこでの生活を知る上で、極めて貴重な資料であり学術的な価値も高いものです。また、これらの絵図はこれまでほとんど公開されたことがなく、公開が待たれていたものです。

今回の特別展示では、特に江戸時代の鉱山について、絵図等の歴史資料と鉱物、鉱石などの自然科学の両面から取り上げます。

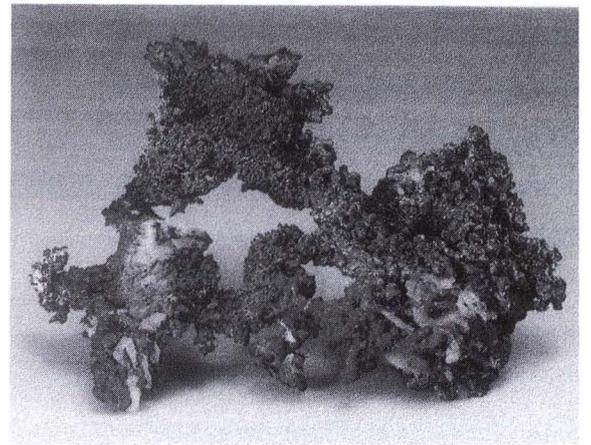
詳細は、国立科学博物館普及課までお問い合わせください。



製鉄絵図
(大橋高炉図)



鉱山絵図
(三瀧縣三池稻荷山石炭坑之圖)



自然銅
(秋田県仙北郡協和町荒川鉱山)

○ 科学技術館「遊んでためそう！おもしろワンダーランド」

平成8年3月22日から4月7日の間「遊んでためそう！おもしろワンダーランド」と題した特別展を開催します。これは日常生活にあるものの中からサイエンスの基本的な原理を利用したもの、機械的なメカニズムを利用したもの、コンピュータを利用したものなど、私たちが十分にしくみを理解していないものについて、見学者が楽しみながら自然に学べる参加・体験型展示で構成し、次代を担う児童・生徒をはじめ一般の方々に興味をもってもらうことを目的に開催するものです。

詳細は科学技術館展示部 Tel 03-3212-8509までお問い合わせください。

事務局からのお知らせ

「全科協ニュース」を皆様の情報交換の場としてご活用ください。資料や情報の提供、標本などの借用希望、事業案内、ご意見、ご提案など皆様の原稿をお待ちしております。

編集後記

1月号の編集は、鳥取県立博物館が担当しました。次回は、国立科学博物館の担当です。ご期待下さい。

全科協加盟館園の状況（平成7年10月31日現在）

区分	平成6年度末	平成8年 1月1日現在	増減
正会員	214	224	9
購読会員	20	22	2
維持会員	37	38	1
計	271	283	12

正会員の設置者別内訳

区分	平成6年度末	平成8年 1月1日現在	増減	
国 公		6 (2.8)	77 (3.1)	1
	市町村	86 (40.2)	89 (39.9)	3
	財団法人	24 (11.2)	25 (11.2)	1
私	株式会社	35 (17.1)	37 (16.6)	2
	個人	4 (2.4)	4 (1.8)	0
	社団法人	2 (0.9)	2 (0.9)	0
	その他	13 (6.1)	13 (5.9)	0
計	214(100.0)	223(100.0)	9	



COLORATA

Venture Into The Past The Living Earth Communication For The Future

ミュージアムグッズの企画・デザイン

カラータ株 〒111 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル3F

TEL03-3865-8110 FAX03-3864-4049

感動環境
創造会社です。

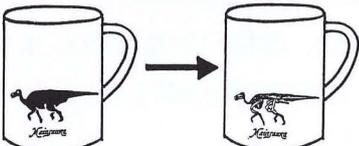
NOMURA

株式会社 乃村工芸社

本社：東京都港区芝浦4-6-4・電話03-3455-1171(代) 〒108

営業種目/ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティ
ング・企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工

恐竜マグ



あたためた飲みものを入れると
骨格図にかわります!!

株式会社 アンティー

TEL 03-3467-6555
FAX 03-3467-6568

* ミュージアム・ショップグッズの企画・製作・販売 (マグカップ、Tシャツetc.)
* 特設売店の代行

〒151 渋谷区富ヶ谷1-17-9
パークハイム302

INTERIOR / EXTERIOR / DESIGN / EQUIPMENT
ONY KOBO CO., LTD.

東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル
TEL (03) 3221-1102(代) FAX (03) 3221-1185



動物園 / 水族館 / 博物館
企画・設計・施工

Practical Specimens for Study of Earth Science

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)
岩石薄片製作(材料提供による薄片製作も受け賜ります。)

大英博物館 / 恐竜復元模型
縮尺: 実物の40分の1 精密教育用モデル、大英博物館製作による刻印入

TEL 03-3350-6725
上京時にはお電話にお立ち寄り下さい。

[特に化石関係は諸外国より良質標本を多数直輸入し、力を入れておりますので教材に博物館展示等にぜひご利用ください。]

Fossils, Minerals & Rocks
株式会社 **東京サイエンス**

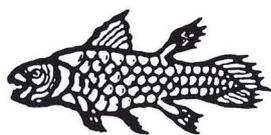
本社 〒150 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イオオ・アネックスビル
TEL. 03-3350-6725 FAX. 03-3350-6745
ショールーム 紀伊國屋書店新宿本店1F TEL. 03-3354-9439

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

美術

はく製

〈各種生物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工 / 販売 / リース



有限会社 **東洋近代美術研究所**

製作所 〒272 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎0473-37-5678
☎0473-37-5883
FAX 0473-38-1978

本社 〒272 千葉県市川市国分5-3-25 ☎0473-74-1564

感じる科学

動刻

▲ 人体型ロボット
コスモ博士(宮崎科学技術館)

▲ 恐竜ロボット
ティラノサウルス

文化施設・商業施設・ディスプレイ企画・設計・施工

kokoro 株式会社ココロ

〒205 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL 0425(30) 3911(代)・3939(営業)
FAX 0425(30) 3900・3927(営業)

